

登壇

第61号
平成28年8月号

発行
相生市教育委員会
相生市人権教育研究協議会

8月は、「人権文化をすすめる 県民運動」推進強調月間です！

「人権文化」とは

日常生活の中で、お互いの人権を尊重することを、自然に感じたり、考えたり、行動することが「当たり前」になった生活をいいます。

「ちっともおもしろくない」

ピョンタたちはミーマーといっしょにボールあそびをしたかったのに、ミーマーに、

「おまえたちが入ると、ちっともおもしろくない。」と言われて、とてもかなしかったとおもいます。

ぼくがもしもだれかにいじわるをされたら、いやだなとおもう気持ちになります。今までは、そういうときはおこって言いかえして、それでも聞いてくれなかつ

ったら、もっときつくおこって言って聞いてもらおうとしていました。でも、けんかになるとよけいにいやな気持ちになります。だから、言いあいになつたときには、ぼくから先にあやまったら、あいてもあやまってくれるとおもうので、つきからはそうしたいです。そうしたら、いやな気持ちもおさまるのかなとおもいました。



(小学2年生)

「ふるやのたいせつな」

わたしの住む地域は、お年よりの多い地域です。それなのに、坂道が多く、道がせまいです。もっと言えば、せまい道なのに、車もよく通ります。そんな町に住むお年よりの顔は、いつもここにこしています。

もっと文句を言ったり、不満そうな顔をしていてもおかしくないはずなのになあと思います。どうして、いつも笑顔なのか考えてみました。きっとそれは、「ふるさと」だからだと思います。ふるすとは、落ち着く場所、昔から見ていた景色が好きだからだと思います。まとめると、すごく大好きで大切な町だと思っているのだと思います。

私もいずれば、年をとります。この地域が、今よりももっと住みやすく変わり、そして何より、今のお年よりと同じようにいつもここにこ笑顔で過ごして、楽しみたいです。



(小学4年生)

「かるた大会について」

私は、かるた大会を考えてくれた運営委員会の子たちに感謝しています。

チームでかるたをすると、チームの子と協力できて仲よくなるきっかけにもなるからです。それに、一年生も楽しめると思います。

かるたをしているとき、二、四、五年生の子たちが一年生のことを思って、やさしくてかげんしてくれて、さすがだなと思いました。

片づける時、みんながカードの向きをそろえて私にわたしてくれました。一年生の子たちも勝てうれしそうにしていたから、私もうれしかったです。これから、私もうれしかったです。これか

らもたてわり班での活動があると思うので、もっと親しくなれるようにしていきたいです。



(小学6年生)

講演会「おもしろ脳科学で、

「ハッピーを作り出そう」感想より

「人は言われたことができない」ということが印象に残っています。思っていることを言葉だけで伝えても、その人が思っていることは、全然違います。そのときに「全然違うやん」と怒るのではなく、「私の言い方をもっとよくすればよかったんやな」と考えられるようになれば、さらに人とのコミュニケーションがとれるということに気づきました。

(中学1年生)

これから、友達に向けて言葉や家族に向けて言葉がそのまま自分に返ってくることを心において、人と接していきたいと思っています。そして、自分に関しても暗いことばかりを言うのではなく、明るく物事を考えていきたいと思っています。

(中学2年生)



「中学生パーロン大会」

自分に対してポジティブになりました。今までの自分は、ミスをして先生に言われる度に「もうだめだ」と崩れて、時には部活動が苦しかった日もありました。でも「苦しい」と自分に言い聞かせるのではなく、少し物事に対する視点を変えてみるだけで良い方向に脳が働くことがわかりました。だから、これからは失敗した時、自分の短所ばかりを分析するのではなく、ある意味開き直ろうと思います。

(中学3年生)

中学生パーロン大会を通して、私は仲間と協力し、みんなで一つのことをやりとげる大切さ、楽しさを知りました。今まで約六年間を共にしてきた友達だからこそ、お互いにはげまし合い、ぬかれそうになっても、最後まで一生懸命こぐことができました。一位になることはできなかったけど、みんなと一緒に船に楽しく乗ることができたので、三位でも嬉しかったです。今回の経験でみんなとの絆をより深めることができたので、これで終わりではなく、

これから
の体育祭
や日々の
生活でし
っかり生
かしてい
きたいな
と思いま
す。普段
できない
貴重な
体験をさ
せてくだ
さった、
大人の方
のおかげで、とてもいい思い出ができた。
次は、私たちがこのペーロンとい
う相生のよき伝統を守り、次世代に受け継
がれるものになりたいと思います。これ
から何十年も、相生がペーロンで栄える
ような町になって、相生といえはペーロ
ン、そう言うってもらえるように、この町
のためにもがんばろうと思います。

(中学1年生)



「トライやるウィークを終えて」

私は、トライやるウィークを終えて、「働く」意味を知り、大切さを学びました。

その中でも特に学んだことが二つあります。一つ目は、「感謝」です。働くということは、とてもしんどく疲れます。それでもがんばれるのは、やはり「感謝」があるからだと思いました。ある看護師さんは、私にこんなことを言ってくれました。

「看護師はとてもしんどい仕事だけど、患者さんにありがとうと言われると、がんばろうと思えるんだよ。」

私は、この言葉を聞いて、看護師のほかにも、いろいろな職業の方にもっと「感謝」を伝えていこうと思いました。

二つ目は、「みえない仕事」です。みえない仕事は、優しさがこもっていました。例えば、お茶の温度調節や食事の調味料の量が一人一人違って



るなど、みえない仕事は、なかなか気づかないけれど、看護の仕事と同じくらい大切なんだと思いました。学校生活でもたくさんみえない仕事があると思うので、見つけて、実行していこうと思いました。そして、社会常識やマナー、職場での環境など、トライやるウィークでしか学べないことがたくさんありました。学んだことを少しでも多く学校生活で活用できるように意識していこうと思います。

(中学2年生)

「ソーシャルサイトのリスク 『あなたの投稿は消えない』」

を聴いて

いつも普通に何も考えず使っていたSNSの裏側には、とても怖いことがたくさん隠れていることがわかり、怖くなりました。今では、生活の一部になっているほど誰もが使っているSNSだからこそ、気をつけて使おうと思いました。

将来、就職などの時にまで影響してくることは、本当に怖いと思いました。今日教えてもらった設定を続け、教えてもらったことをこれからのSNSなどを使う

ときに役立てていこうと思いましたが、自分では何とも思わずに投稿したことで、社会から見ると、いけないことだったり、人を傷つけたりすることもあることがわかりました。ネット、SNSが安易に使える時代になったからこそ、一人一人が使い方を今まで以上に気をつけるべきだと思いました。ツイッターやインスタグラムへの投稿は、今までしてきたものをもう一度見直してみようと思えます。そして、これらの投稿も軽い気持ちで何でものせるのはやめようと思えました。とてもためになる講演を聴けてよかったです。



(高校3年生)

相生市では、小学校5、6年生、中学校3年生を対象に、昨年度よりケータイ・スマホ教室を行っています。自分も相手の人も大切にしながら、安心安全に使うためのルールやマナーを学んでいます。

家庭対話ウィーク

家族で対話を

7月21日(木)～7月27日(水)の1週間を家庭対話ウィークとしています。

まずは「あいさつ」から

「おはよう」「いってらっしゃい」「ただいま」「おかえり」「おやすみ」など気持ちのよいあいさつは、家族の絆を深めます。



「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとうございます」は感謝の気持ちを育てます。「こめんなさい」は素直な心を育てます。家族で過ごす時間を作っていますか？

忙しい毎日の中では、家族みんなで過ごす時間が少なくなりがちです。家族が一緒にいる時間を作ることで、夫婦や親子の会話が増え、「コミュニケーションが深まります。また、一緒に家事をしたり、家族でできる何かに取り組んだりすることで、家族の一員として支えあっているということを実感します。

〈人権の集い〉

出演 奥山 佳恵さん

講演「生きてるだけで100点満点」

女優・タレントとして活躍される一方、ダウン症に対する理解を求める啓発活動に力を注いでおられます。

日時 8月10日(水) 18時00分 開演

会場 相生市文化会館大ホール

〈非核平和展〉

日時 8月3日(水)～8日(月)

10日(水)

会場 相生市文化会館

(1階エントランスホール・小ホール)
内容 非核平和ポスター、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネルの展示等



〈ふれあいコンサート〉

出演 ESPERANZA

(えすぺらんざ)さん

愛と名前名の奇跡

難病・ひきこもりを乗り越えて

光のステージへ

日時 12月3日(土) 14時30分 開演

会場 相生市文化会館大ホール

※すべて入場無料